

建国記念日に想いを込めて

平成十九年二月九日

〒四七四 〇〇五六

愛知県大府市明成町一丁目一七五

〇五六二 四四 〇七〇八

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市

今の日本国は、神倭伊波礼比古尊かみやまといわれひこのみことの御即位の大礼をお上げになった日を、日本の国の建国記念日としていますが、そうではなく、

真実の建国記念日は、今から約七百万年前に、人間人類の大祖人であります「初代」伊邪那岐尊・伊邪那身命が、丹波たんばの国の貴天原たかあまはらの丹庭たにわに、御降臨しんめいになられ、神命しんめいに従い三十八名の御子を産み育てられた場所が人間人類の発祥の地で御座います。

この人類発祥の地のことを、日出にずる丹の元もと・始めの国・日本ノ国と伝えられています。

この始めの国とは、日輪太陽を中心とする宇宙産うちゅうじゅうさん十三示元津じげんかいの中に、正義かたまりと良心の塊かたまりであります生命界・地球に、植物・動物・人間の生命を継承する為に「生命継承権憲邪せいめいけいしゅうけんけんじや」として、初代が御降臨に成られた場所の事を伝えているのです。その事が建国記念日で御座居ます。

嘘、偽りを許さない、大正腑天神・熱田ノ神の靈神理氣が太陽に、丹と芒種のエネルギーを練り阿弥生産出され、太陽の周り日輪界に留め置かれ、太陽の真光を諸に受け留めさせに成り、互いに激しく照り輝き返し合わせ、激しく高まり来る熱氣を以って、日輪太陽界を熱い田とされ賜い、生命遺伝子の源と成る根を創り出す為に、滾り来る太陽の真光を丹と芒種のエネルギーとを、更に激しく反心させになり、真光と芒種のエネルギーとが渾然一体に、吸収吸着し合い、親の光「親光」となり、その親光を丹が何時でも何処でも吸集吸着する事が出来る亢進状態を創り出す事が出来たのが、日輪太陽界です。

この日輪太陽でお活動氣に成られている「九氣九神の靈神理氣」のことを、九条「熱田ノ神」とおよび申上げ、その熱田ノ神の祭りを生産祭りと定め置かれ、この十三示元津「第一の神」と示し定め置かれているので御座います。

続いて、亢進状態になった丹を、太陽の真光と芒種のエネルギーが渾然一体の靈神理氣になった親光に導かれ、十三示元津の最果ての施津であります、宇宙産迂迤の障壁賀津の中に存在する天王平に、宇宙産十一示元津にて発生させにられた「生」が集められていて、親光に導かれた「丹」が「生」と結合して、丹生丹生魂遺伝子と憑軀子されて、植物・動物・人間の元姿を顕現あそばされた丹生津の靈神理氣を「第二の神」と定め置かれたので御座居ました。

更にその丹生丹生魂遺伝子を、無色で透明なる真空光帯の施津であります月津に導きになり、伊勢生成の靈神理氣に依り、雄蕊と雌蕊、雄と雌、男と女に区分けになると共に、生命を誕生させる為に、眼・耳・鼻・舌・身・意を授けられて、生命継承権憲邪を生命界地球に天降しにられた伊勢生成の神を「第三の神」と定め示し置かれたので御座居ました。

日出ひいずる丹にノ元もと「始めの国」なればこそ、第一の靈神理氣れいしんりきを熱田ノ神とお祀りたま申しあげ賜たまい、第二の靈神理氣れいしんりきを丹生津ノ神とお祀りたま申しあげ、第三の靈神理氣れいしんりきを伊勢ノ神をお祀り申上げています。

更に佛教では泰澄たいちよう大師たいしは第一の佛理氣ぶつりきを、「太陽の真光」と「丹」と「芒種のエネルギー」から生産うまれる親光しんこうを、三所大権現さんしょだいこんげんとお祀りされ給たまい、加えて生命せいめいの「生し」を発生じふさせられた十一示元津じゆげんを、十一面觀世音菩薩じゆげんを以もつて現あわれ、その十一面觀世音菩薩じゆげんの胸むねに、人間として一番最初にこの生命界地球あに御降臨あに成りました初代伊邪那岐尊あの両手を合掌あさせになり、初代伊邪那身命あの両手を、お腹の上で指を組み合わせになり、靈神理氣れいしんりきの命めいにより生産うま育そだてられた三十八名のお子の姿を、一本一本の手で以もつて現あわれ、右側に十九本の手を以もつて男子十九名の御子を現あわれ、左側に十九本の手を以もつて女子十九名の御子を現あわれた十一面血種觀世音菩薩せんじゆかんぜおんぼさつぞう像を以もつて人類の大祖人・

ご先祖の御姿あを現あわれたので御座居あました。

この人類の大祖人「初代」伊邪那岐尊が童児どうじの時の事に、吉野山にお登りに成り、青根ヶ峯あの山頂さんていにて、宇宙産十三示元津しゆげんの障壁しやうへき賀津がの中に御座います「天王平てんのうひら」にある天てんの意和戸いわどを出でられるときの事を想おもい出され、その青根ヶ峯あに三津さんの石いしを並べ置かれ、植物・動物・人間の丹生丹生魂にじやうにじやうこん「靈神理氣れいしんりき」を込め置かれたのでございしました。

その靈石れいせきと祭り場まつりばを天武天皇が破壊されたを境にして、役えんの小角おづめが三大蔵王権現だいきおうえんげんを現あわれ、今も吉野山の蔵王堂にお祭りされています。

空海弘法大師は、丹生津にじやうにて植物・動物・人間の丹生丹生魂遺伝子にじやうにじやうこんいでんしに憑つくくされた遺伝子いでんしを、生命遺伝子にお変かえになり、生命繼承せいめいけいし権憲邪けんけんじやとして、この生命界地球に御降臨おされた憲邪けんじやさまを三大太元帥明王さんだいだいげんすいみやうあうとお伝えに成られたので御座居あました。

さてこのお伝えは、丹波の国の真名井原の丹庭に御降臨になられた、人類の大祖人「初代」伊邪那岐尊・伊邪那身命が伝え遺された神勅に依るものがあります。

この始めの国・日本ノ国には、神佛の靈神理氣に従い貫き通すと言う意味を持つ、御難贖助の御誓約という詞があります。例えどんなに苦しく辛くても、互いに良く話し合い、共に贖助し合い、争い戦いは絶対に致さぬを誓う、宇宙産靈神理氣との約束をして居るのです。

したがってその御誓約に背き違えたときには、自らして腹を切り開く切腹と言う厳しい仕来りのある国が、始めの国・日本国で御座います。

それ故に、神風に依って国が護られたときもありましたが、明治の権力者は、御難贖助の御誓約に背き、意のままに成らぬ孝明天皇を暗殺して、意のままに成る天皇を勝手に擁立して、その天皇を神に祭り上げて、神の名の下

に国民を騙し、日本のため・国民の為でもなく、世界平和のためでもなく、自我の欲望権力の為に、次々と侵略戦争を繰り返した罪科に依って、切腹をしなければならぬ身の上であるが為に、アメリカ・イギリスとも和睦できず、終には「神国である」と国民を騙し、神風特攻隊を飛ばしたり、人間魚雷を出撃させて多くの若者の命を犠牲にしたにもかかわらず、国民も目覚め立ち上がる事も無く、日本国全土を焼失させて、そのあげくに、広島長崎に世界で始めて原子爆弾が投下される憂き目に遭ったにもかかわらず、何んらの反省も無く、又しても日本国の権力者が権力欲しさに、再び日本国を戦争の出る国にせんと、憲法第九条の改定せんと企み、特に「日本国憲法第九条は連合国が押し付けた憲法であるから変えなければならぬ」と言うのですが、決してそうではないのです。

このような負け戦の責任を取る者はなく、昭和天皇は日本国と国民を救う為に、戦争責任を一身に担われて、昭和二十年八月十五日を期して、戦争終

結の詔勅をお発しになり、連合国に無条件降伏をされたので御座居ました。
その昭和天皇の御意志の内は、権力に依って神に仕立てられて、口を諷じられた天皇の名の下に、戦争を迫行して、何の責任も取るうともしない権力者達には、言いたき事は山ほどあれど、万難を廃止、二度と戦争をしない誓いを胸に、この先日本国民をいかにして救わんものかと、神佛「皇祖皇宗の御霊」におすがりに成られたので御座居ました。
すると神佛「皇祖皇宗の御霊」は二度と戦争を仕舞いことを条件に、日輪太陽界「九氣九神・熱田ノ神」に産霊をされたので御座居ました。
すると日本国民は、一人残らず昭和天皇の御意志に従い申上げて、神佛にお誓いしたので御座居ました。
昭和天皇は国民の総意の元に、昭和二十一年三月五日に総理大臣を宮中にお招きになられ、次のように勅語を下賜されたのです。

日本国民が正義ノ自覚ニ依リテ、進ンテ戦争ヲ抛棄シテ、
国民ノ總意ヲ基調トシ、憲法ニ根本的ノ改正ヲ加ヘ、
政府当局其レ克ク朕ノ意ヲ體シ必ズ此ノ目的ヲ達成セシムコトヲ期セヨ
と仰せになり、

神佛「皇祖皇宗の御霊」を通し、九氣九神【九条】熱田ノ神に「御誓約」の約束を果たされたので御座居ました。

この神佛との御難賛助の御誓約を無視して、戦争を迫行して、戦争責任を負い切腹をしなければならぬ者が、責任逃れの口実に、「連合国が押し付けた憲法であるから改正しなければならぬ」と言い出した言葉を信じては成らず。
憲法第九条の改正を唱え、美しい国造りを掲げる切腹者の安倍総理を辞めさせねば、日本国民も御誓約に背くと同じ事で、総切腹者となり神罰により、日本列島が核戦争の戦場と成る日が目の前に迫ってきています。

特に神佛の一番お嫌いに成るのが「恩を仇で返す」事で御座います。

今の日本政府がしている隣国を仮想敵国として、日米安全保障条約を強固にする事が「恩を仇で返す」と同じ事になるのです。よくよく考えねば

ならぬのです。

先の大戦において、日本国が隣国に掛けた迷惑を想うときに、連合国が日本列島の四分割占領よんぶんかつせんりょうをすると決めた事に、中国が反対し「天皇の事は日本人自身が決める事であり、他国が口出しくちだしする事すでに侵略である。」と言い切り、連合国で取り決めた中国への十九兆円の賠償金を取らずに、放棄ほうきしてくれた隣国を仮想敵国かそうてきこくとしての日米安全保障条約は、許される物ではないのです。

しかも、日本列島を米国の核の傘したの下に、核基地化すると同じに、日本国が憲法第九条を改定して、再び戦争の出来る国造りをするのでは、御難ごなん賛助さんじょの御誓約ごせいやくに背く事になり、九条「熱田ノ神」のお許しは戴けず、神罰により総切腹しなければならぬ時と、隣国すべてが日本列島を捨て置けぬと想う時とが一致する時が、第三次世界大戦であり、日本列島が核戦争の戦場と成る時である事をお知らせくださったのは、平成元年二月二十四日の昭和天皇の

大喪たいそうの例れいの時の事に、NHKのテレビ放送の中を通してお観みせ下さった、神々との誓いの中で知らされた事を、改めて書かせていただきました。

二度と戦争を仕舞い事を全世界に誓った憲法第九条を改正すると発言しただけで、全世界に真まことの信用をなくした信用を取り戻す為に、全世界の戦争せんそう殉難じゆんなん死された総ての御靈魂みたまをお祀りする、世界平和神宮院を日本武尊やまとたけるのみことが民草和氣くさなの剣けんを納め置かれた地、熱田神宮の元宮跡であり、尾張族が日の神「熱田ノ神」をお祀りされた、愛知県名古屋市緑区大高町日神山境内に建設為し、竝宮なひのみやとして、日本国憲法の生産親うみおやであります昭和天皇をお祀りする昭和神宮を、今上陛下のお詞ことばを戴き天皇の名の下に建設為し、日本国憲法第九条を世界憲法と貢献するときに、真まことの世界平和が始まり、日本国の安泰となるのです。謹んで神佛の御啓示に従い申し上げます。

畏